

## 提案 1 (1) 魅せる下水道

### キャッチコピー 下水道の“顔”は、まちの“顔”

#### 情報発信のポイント

- どこにでも必ず存在する、マンホールの蓋＝下水道の顔。これを利用して、蓋のデザイン＝表情を変えることにより、下水道がそこに在る、いたるところに在ることに気づいてもらう。
- 全国共通、面的に対応可能、一斉発信
- 明るく 楽しく にぎやかに下水道のPR
- ターゲットは、大人から子供まで！  
～ 「えっ！これは何？」という声を求めて ～

#### 1. 今までの情報発信

##### (取り組み状況)

- 全国各地にマンホールの蓋は多々、存在。その数は、他のライフラインに勝る。
- 下水道の主要部は地下に埋まっていて見えないが、沢山の蓋は地上に出ており、その特性を活かし、各々、観光名所やシンボルマークなどを利用してデザイン的にも色彩的にも工夫されている。
- 蓋の活用用途は、主に公共目的であることが多い。

##### (課題・問題)

- マンホールの蓋は、必ず、皆がどこかで目にしているのに、「そこに在る」ことの認知度が低く、下水道の存在について大半の方が「知らない」等の意識感覚の一因につながっている。
- 他企業のマンホール蓋も沢山あり、下水道の蓋であることが分かりにくい。

#### 2. 下水道未来計画研究会としての提案

##### (提案)

- 「下水道の蓋のデザインをかえよう」

##### (PR手法やPR内容)

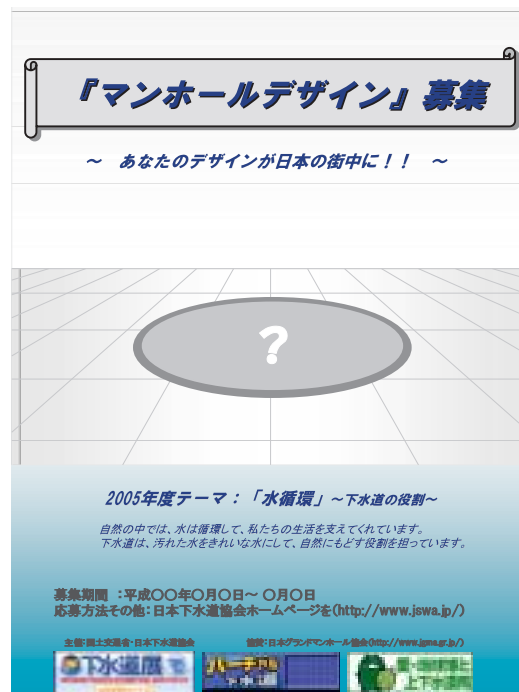
- マンホールの蓋を、下水道事業をはじめ、他分野である民間企業の広告や若手デザイナーのギャラリーなどの場として利用。
- 下水道と他分野とのコラボレーションによる「格好よい、美しい、楽しい」等の要素を取り込んだ全国区の広報実施。
  - ・定期的なデザインの変更、デザインコンテストの実施によるプレミアム性を持たせた蓋の設置など、人の目を引き付けさせ、飽きさせない工夫。
  - ・デザインの中に、下水道の蓋と分かるような、言葉やマークを常に入れる。

### (実践につながる課題とその解決方策)

- 材料の技術開発
  - ・型（シール式、はめ込み型など）
  - ・安全性（耐久性、滑り止めなど） など
- その他協議
  - ・各事業者との維持管理区分、費用などのルール設定
  - ・各管理者との積極的な協議
- 募集方法（コンテストや広告主）

### (効果)

- 「これは何？」と下水道の蓋であることに**気づく瞬間を提供**。
- 他分野との連携により、間接的に「下水道が何かと使える」＝「存在」をじわじわと広げていけ、更に、その他分野のパワーにより、下水道のPRの場を先導してもらえ。
- 蓋の変化により、まちが明るく、楽しく、にぎやかになり、まちづくりへの寄与。



### 3. 提案を受けて想定される情報発信



## 提案 1 (2) 魅せる下水道

### キャッチコピー すごい下水道の地下施設を見て・知って・理解して

#### 情報発信のポイント

- すごい下水道の暗渠施設が地下に存在していることをもっと知ってもらおう
- 目に見える情報発信を行い、多様化している下水道事業の理解を深めてもらう
- ターゲットは、大人から子供まで！  
～ 「えっ！ここにこんなものがあるの」という声を求めて ～

#### 1. 今までの情報発信

##### (取り組み状況)

- 暗渠施設に関しては、工事実施前の地元説明会や工事中の現場見学等で説明する程度。
- 供用開始後は、殆ど説明する機会を設けず情報発信していない。
- 下水道科学館等で、実物の暗渠施設を見ることが出来る施設があるが、全国的にその数は少ない。
- 処理場、ポンプ場等の施設見学会や下水道出前教室等においても、暗渠施設の存在や役割については、パンフレット等で説明する程度。

##### (課題・問題)

- 暗渠施設は、地下のどこにあるのか分からず、その存在・役割については、大半の方が「知らない・分らない等」の意識感覚。
- 目に触れる機会が少ないため他のライフラインと比較すると、明らかに下水道の存在感や必要性の認識が薄い。
- 市民からは、下水道事業の内容が多様化し複雑すぎて、仕組みや役割等も理解されにくくなっている。

#### 2. 下水道未来計画研究会としての提案

##### (提案)

- 「工事に使用する実物大のシールドカッター等をモニュメント風に仕上げ設置する」
- 「暗渠施設の存在や役割等を伝える情報発信を含めた概要案内表示板を設置する」

##### 【設置場所】

- 駅前広場、公園、歩道上、処理場及びポンプ場等  
・大きな暗渠施設が整備される場所やシールド発進基地として使用する場所に設置

##### (PR手法やPR内容)

- 雨水貯留管等の整備で、実際に使用するシールドカッター等をモニュメント風に作製。整備される地区の中で、設置可能な場所及び人目に付く場所を選定し設置することで、下水道のすごい暗渠施設が地下に存在することをPR。

○暗渠施設の概要や役割等を説明する概要案内表示板も併せて設置し、多様化している下水道事業の内容を積極的にPR。

- ・表示板は、通行人や見学者に対し、下水道事業の内容を分かり易くかつ正しく伝えることを意識して、表示内容の工夫を検討するとともに、視覚的にふと興味をもつもの又は目に付くものにする。(例えば、音声案内、電光掲示的なものを施す等…)

### (実践につながる課題とその解決策)

○モニュメントや概要案内表示板の作製等に関する費用及び設置等に関する協議。

- ・費用は、工事発注時の**イメージアップ費**で対応
- ・協議は、各管理者と積極的に実施し、設置に関する理解を求める

### (効果)

○暗渠施設の存在や下水道事業の必要性の認識等が**市民、社会等に浸透**。

- ・大きい暗渠施設の存在が浸透すれば、下水道もすごいこと(スケールや技術等)を行っていることが、もっと分かってもらえる。その影響は、いろいろな面に反映され、非常に効果大きい。
- ・下水道の使命は単なる「水洗トイレ化」の事業だけではなく、浸水対策等の他事業の存在や多様な役割を果たしていることを理解していただける。

## 3. 提案を受けて想定される情報発信

